

知識探訪

多民族社会の横顔を読む

協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

マレー舞踊の魅力と特徴

新井卓治 (日本マレーシア協会専務理事・文教大学講師)



クランタン州立舞踊団とコタバルのイスタナ・ジャハールにて
(筆者提供)

多民族国家マレーシアにはさまざまな「民族舞踊」があるが、今のマレーシアが位置する「地域の伝統舞踊」という観点では、マレー系の人々の間で継承されてきたマレー舞踊がそれにあたると思うことは、歴史的、文化的に妥当なことであろう。

筆者は、2000年に当時のマレーシア文化芸術観光省が世界の主要都市でマレーシア舞踊団を立ち上げた際に、東京のグループ設立に参画し、その後、マレー舞踊を中心とした踊りを披露する活動を行っている。自ら踊るだけでなく、各地の舞踊家や指導者らとの交流の中で実感してきたマレー舞踊の魅力と特徴をお伝えしたいと思う。

マレー舞踊は基本的に群舞であり、「王宮舞踊」、「舞踊劇」、「民衆の踊り」の3種類に分類される。

「王宮舞踊」は、かつてマレー半島に興った王国の宮中で踊られていた舞踊で、優美でゆっくりとした動作が特徴である。女性の衣装はタイやジャワとの共通性も見られる。クランタン州の Asyik、パハン州とトレンガヌ州の Timang Burung、ブルリス州の Layang Mas などが有名である。筆者は、今年3月にマレーシアの衛星放送アストロで放映された日マ共同制作ドキュメンタリー番組にて、クランタン州の王宮舞踊伝承者や州立舞踊団と Asyik を踊ったのだが、王宮舞踊の奥深さを垣間見ることができた貴重な機会であった。

マレー半島北部の「舞踊劇」では、劇にドラマ性と美しさをもたらすために舞踊が盛り込まれている。代表的なものが Mak Yong の幕開けの踊り Menghadap

Rebab である。踊り手が Rebab と呼ばれる弦楽器に面して (menghadap) 踊ることからその名が付いている。リードダンサーは自然や生命の美を称えた歌を歌いながら踊る。

「民衆の踊り」は、自然への畏敬や感謝、宗教的信仰心、人々の繋がりなどをテーマとしているが、現在のマレー舞踊では全ての要素を融合し、現代的な音楽と振付で踊るプログラムが主流となっている。舞踊のスタイルは以下の4種類に分けられる。

「Asli」は、ゆっくりとしたテンポの曲を使い、動きはシンプルである。足が床から離れず、両腕をしなやかに振って踊るのが特徴である。

「Inang」は、Asli より速いテンポの歩く踊りであり、Inang 調と呼ばれる曲で踊るダンスの総称。腕を軽やかにゆり動かし、パートナーと視線を交わしながら踊る。

「Joget」は、マラッカへやってきたポルトガル人の音楽が起源とも言われるリズムの音楽に合わせて、足で細かいステップを踏み、手と腕でリズムをとる踊りである。

「Zapin」は、中東から伝わった音楽とリズムがマレー文化と融合した踊りで、ダイナミックなステップで様々なフォーメーションを展開する踊りである。

現代マレー舞踊では、テンポの速い音楽に合わせて、シンプルでモダンなステップが多用されている。しかし、ある指導者いわく、マレー舞踊に特有の身体技術が用いられている限り、それは伝統を引き継ぐマレー舞踊であり続けるとのことで、このような解釈のもと、バラエティに富んだマレー舞踊が産み出されている。

マレー舞踊とは、時代と共に常に進化し続けている伝統舞踊であり、そのような視点で鑑賞すれば、舞踊からマレーシアの世相を感じとることも出来るのではないかと思う。

< 筆者紹介 >

1967年東京都生まれ。東京国際大学大学院社会学研究科修士課程修了。公益社団法人日本マレーシア協会専務理事。文教大学非常勤講師。著書に『まずはこれだけマレーシア語』など。